

大学等環境安全協議会
実務者連絡会会報

第十号 記念号

平成 20 年 3 月

目 次

実務者連絡会から				1
第 23 回技術分科会 実務者連絡会企画プログラム報告				2
大学等環境安全協議会第 9 回実務者連絡会報告				3
第 9 回実務者連絡会総会報告				3
平成 18 年度実務者連絡会事業報告				4
平成 18 年度実務者連絡会決算報告				5
平成 19 年度実務者連絡会事業計画				6
平成 19 年度実務者連絡会予算執行計画				7
平成 19 年度実務者連絡会プロジェクト				8
特集 大学等環境安全協議会実務者連絡会 10 周年				9
創立 10 周年によせて	京都大学	真島 敏行		10
キーワード“廃棄物処理・環境分析”にキーワード“化学物質管理・安全衛生”が加わって－10 年の思い－	筑波大学	柏木 保人		11
実務者連絡会の方向付けはみなさんで！	浜松医科大学	鈴木 一成		13
大学等環境安全協議会実務者連絡会の 10 周年にあたり	秋田大学	武藤 一		15
実務者連絡会 10 周年によせて	新潟大学	大泉 学		17
実務者連絡会（技術者連絡会）の記録				18
会報の記録				24
技術賞候補者推薦のお願い				29
第 10 回実務者連絡会の予定（案）について				30
実務者連絡会ホームページについて				31
実務者連絡会名簿の再登録、追加について				32
実務者連絡会申し合わせ				33
平成 20 年度実務者連絡会役員				34
大学等環境安全協議会実務者連絡会名簿（地区別）				35

実務者連絡会から

実務者連絡会世話人

平 雅文、大泉 学、武藤 一、鈴木一成

実務者の皆様におかれましては、平成 19 年度の技術分科会（山形大学）、協議会総会・研修会（京都大学）に出席され、有意義に過ごされたことと思います。

実務者連絡会は発足から 10 年目をむかえました。その間に名称も技術者連絡会から実務者連絡会に変更になりました。有機・無機廃液処理を外部委託する大学が増え、我々の業務も廃棄物処理を主体とするものから労働安全衛生管理、化学物質管理、作業環境測定、環境管理など多岐に渡ってきています。連絡会の構成メンバーも廃液処理施設の助手、技術・教務職員・補佐員等に加え、施設系職員、事務系職員、賛助会員職員等広がりを見せております。

当初は協議会総会・研修会の前日に実務者連絡会を開催しておりましたが、理事会の評価も得て、平成 16 年度から夏の技術分科会において実務者連絡会が企画する 2 時間程度のプログラムを、秋の協議会の研修会として実務者連絡会を開催しております。平成 17 年度（第 22 号）からの協議会会報には実務者連絡会からの報告等も掲載されるようになりました。平成 18 年度からは新たに連絡会プロジェクトを実施しており、現在、2 件のプロジェクトが進行中で、協議会の中でも我々実務者には大きな期待が寄せられていると思われま

す。一部で、協議会の中での実務者連絡会の開催は、フリーディスカッションが実施しにくいというご意見もあります。また、連絡会の目的、参加要件、世話人の人数、ブロックは必要か等についても見直す時期に来ていると思われま

す。10 年を機に、これまでの連絡会の活動を整理し、会員名簿の整理を行い、実務者の関わっている業務、ニーズに合わせて、連絡会のあり方、方向性について、組織も含め、時間をかけて検討していきたいと思っております。技術的な面では現在進行中のプロジェクトともリンクしますが、ネットワークを整備し、実務者が相互に情報を共有し、情報交換できる場が提供できればと考えております。

実務者連絡会が、仲間同士の交流の場、気軽に成果を発表できる場として、ますます発展し、我々実務者の技術の向上、社会貢献に役立てるよう、皆様のご協力をよろしく願

いいたします。連絡会に対するご意見もお待ちしております。

第 23 回技術分科会 実務者連絡会企画プログラム報告

大学等環境安全協議会第 23 回技術分科会において、実務者連絡会企画プログラムを実施致しました。下記報告要旨は協議会会報（第 25 号、平成 20 年 3 月）に掲載されます。

日時：平成 19 年 7 月 27 日（金）午前 10 時～11 時 50 分

場所：山形大学医学部大講義室

内容：技術報告

- ・ 共沈法を使ったセレンの排水処理

京都大学 環境保全センター 真島 敏行

- ・ 実験系排水の pH の 24 時間監視

山口大学 総合科学実験センター 藤原 勇、山野 聖子、
石田 たい子

事例報告

- ・ 実験室における安全管理の実践－技術職員の連携プレー

群馬大学工学部 衛生管理衛生管理者 関山 節子

大学等環境安全協議会第9回実務者連絡会報告

大学等環境安全協議会第9回実務者連絡会を、第24回大学等環境安全協議会研修会第1部として開催致しました。下記講演、ディスカッション要旨は協議会会報（第25号、平成20年3月）に掲載されます。

日時：平成19年11月29日（木）午前10時15分～午後12時00分

場所：京都大学ローム記念館3F大ホール

内容：I. 教育研究機関の化学物質管理ネットワークについて

京都大学工学研究科 木下 知巳

II. パネルディスカッション「実験系廃棄物処理委託と適正処理の確保」

パネリスト：岡山大学 秋吉延崇

新潟大学 大泉 学

神戸大学 吉村徳男

秋田大学 武藤 一

アサヒプリテック(株) 原田大助

コーディネーター：高エネルギー加速器研究機構 平 雅文

第9回実務者連絡会総会報告

第9回実務者連絡会総会を下記議題でご審議いただきました。総会議事につきましては満場一致でご了承いただきましたが、連絡会のあり方等につきまして助言等ございましたら、世話人にご連絡下さいますようお願い申し上げます。

日時：平成19年11月29日（木）午前15時00分～午後15時30分

場所：京都大学ローム記念館3F大ホール

議題：

- (1) 平成18年度事業報告及び決算報告
- (2) 平成19年度事業計画及び予算案
- (3) 平成19年度実務者連絡会プロジェクトの募集について
- (4) その他

平成 18 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業報告

・平成 18 年 7 月 28 日 実務者連絡会企画プログラムの実施

第 22 回大学等環境安全協議会技術分科会において実務者連絡会企画プログラムを実施した。

日時：平成 18 年 7 月 28 日（金）午前 10 時～11 時 50 分

場所：島根県民会館

内容：技術報告「PCB、ダイオキシン、アスベストの話題」

- ・ 大学における化学物質の暴露防止対策
興研（株）労働衛生コンサルタント事務所 岩崎 毅
- ・ アスベストの調査と対策

NEC ファシリテーズ（株）立石和男

事例報告「労働安全衛生に基づく「作業環境」の話題」

- ・ 東北大学における作業環境測定について
東北大学環境保全センター 進藤 拓
- ・ 浜松医科大学における作業環境測定とその結果への対応
浜松医科大学医療廃棄物処理センター 鈴木一成
- ・ 理研・和光研究所における事故事例と再発防止策
理化学研究所安全管理部 吉識 肇

・平成 18 年 11 月 9 日 第 8 回実務者連絡会を開催

第 24 回大学等環境安全協議会総会及び研修会において研修会第 1 部 実務者連絡会企画プログラム、及び実務者連絡会総会を開催した。

日時：平成 18 年 11 月 9 日（火）午前 10 時 15 分～午後 12 時 00 分

場所：府中グリーンプラザ（東京農工大学）

内容：I. 講演

- ・大学と労働安全衛生マネジメントシステムについて
中央労働災害防止協会 井本邦彦

II. パネルディスカッション

「大学等の労働安全衛生に関わる課題と問題点について」

コーディネーター：理研 吉識 肇

パネラー：秋田大 武藤、愛知教育大 榊原、京都大 真島、
筑波大 荒井、名古屋工大 箕浦

実務者連絡会総会（午後 15 時 00 分～15 時 30 分）

- ・ 平成 17 年度事業報告及び決算報告
- ・ 平成 18 年度事業計画及び予算案
- ・ 平成 18 年度実務者連絡会功労賞の授与について
- ・ その他

・実務者連絡会企画プロジェクト（18 年度）

1. 「特殊廃液処理施設理解推進プロジェクト」

代表 新潟大学 大泉 学

2. 「大学等における労働安全衛生改善事例の収集と共有化プロジェクト」

代表 愛知教育大学 榊原洋子

・平成 19 年 3 月 実務者連絡会会報第 9 号発行

平成 18 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会決算報告

平成 19 年 3 月 31 日

事項	予算額	明細	備考
(収入)			
	円		
前年度繰り越し	614,081		(内)現金 159 円
実務者連絡会活動費	300,000		大学等環境安全協議会より (H.19.3)
預金利息	220		
収入計	914,301		
(支出)			
	円		
第 8 回実務者連絡会	63,860	63,860	協議会研修会講演料(1件)
第 8 回実務者連絡会総会	5,250	5,250	功労賞記念品代
会報	139,650	109,650	会報印刷代 (会報第 9 号、150 部印刷)
		30,000	会報梱包・送付代
実務者連絡会	400,000	200,000	大泉プロジェクト
プロジェクト費		200,000	榊原プロジェクト
銀行手数料	1,050	1,050	3 件
予備費	304,491		(内)現金 259 円
支出計	914,301		

平成 19 年 4 月 20 日

上記のとおり相違ありません。

監査 吉崎 佐知子 

平成 19 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会事業計画

・平成 19 年 7 月 27 日 実務者連絡会企画プログラムの実施

第 23 回大学等環境安全協議会技術分科会において実務者連絡会企画プログラムを実施する。

日時：平成 19 年 7 月 27 日（金）午前 10 時～11 時 50 分

場所：山形大学医学部大講義室

内容：技術報告

- ・ 共沈法を使ったセレンの排水処理
京都大学 環境保全センター 真島 敏行
- ・ 実験系排水の pH の 24 時間監視
山口大学 総合科学実験センター 藤原 勇、山野 聖子、
石田 たい子

事例報告

- ・ 実験室における安全管理の実践－技術職員の連携プレー
群馬大学工学部 衛生管理衛生管理者 関山 節子

・平成 19 年 11 月 29 日 第 9 回実務者連絡会を開催

第 25 回大学等環境安全協議会総会及び研修会において研修会第 1 部 実務者連絡会企画プログラムを開催する。

日時：平成 19 年 11 月 29 日（木）午前 10 時 15 分～午後 12 時 00 分

場所：京都大学桂キャンパス

内容：I. 教育研究機関の化学物質管理ネットワークについて

京都大学工学研究科 木下 知巳

II. パネルディスカッション「実験系廃棄物処理委託と適正処理の確保」

パネリスト：岡山大学 秋吉延崇、新潟大学 大泉 学、

神戸大学 吉村徳男、秋田大学 武藤 一、

アサヒプリテック(株) 原田大助

コーディネーター：高エネルギー加速器研究機構 平 雅文

実務者連絡会総会（午後 15 時 00 分～15 時 30 分）

- ・ 平成 18 年度事業報告及び決算報告
- ・ 平成 19 年度事業計画及び予算案
- ・ 平成 19 年度実務者連絡会プロジェクトの募集について
- ・ その他

・実務者連絡会平成 19 年度プロジェクト

実務者が企画するプロジェクトを 1、2 件採択し実施する。1 件あたり 15 万円程度を予定。

・平成 20 年 3 月 実務者連絡会会報第 10 号発行

平成 19 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会予算執行計画

事項	予算額	明細	備考
(収入)			
	円		
前年度繰り越し	304,491		(内)現金259円
実務者連絡会活動費	300,000		大学等環境安全協議会より
預金利息	0		
収入計	604,491		
(支出)			
	円		
第9回実務者連絡会	10,000	10,000	功労賞、その他
会報	150,000	120,000	会報印刷代
		30,000	会報送付代
実務者連絡会 プロジェクト費	300,000		
銀行手数料	1,000		振込み手数料他
予備費	143,491		
支出計	604,491		

平成 19 年度大学等環境安全協議会実務者連絡会プロジェクト

実務者連絡会プロジェクトとして、平成 19 年度より 2 年を期間とする実務者が企画するプロジェクトを募集しました。課題の審査は実務者連絡会世話人が行い、以下の 2 件が採択されました。

1. Web 公開を前提とした教育研究機関における労働安全衛生改善事例の集約

代表 愛知教育大学 榊原 洋子

2. 廃棄物外部委託処理に関する情報共有化

代表 岡山大学 秋吉 延崇

特集 大学等環境安全協議会実務者連絡会 10 周年

世話人 平 雅文

平成 11 年 2 月に会報第 1 号（大学等廃棄物処理施設技術者連絡会会報第 1 号）が発行され、以後、毎年この時期に会報を発行してまいりましたが、今回で節目の第 10 号を発行することになりました。

技術者連絡会は平成 10 年に発足し、平成 11 年 11 月に第 1 回技術者連絡会が開催されました。それ以前にも、技術者ネットワークという名称で活動していましたが、技術者連絡会（平成 15 年 11 月より実務者連絡会に名称変更）としては平成 19 年度で 10 周年をむかえたということになります。

第 17 回大学等廃棄物処理施設協議会総会・研修会の前日の平成 11 年 11 月 17 日に開催された第 1 回技術者連絡会、その後の懇親会に参加しましたが、われわれ技術職員の活躍の場ができたという感じがしたのを思い出します。初代世話人の真島さん、柏木さんのご苦勞は大変なものだったと思います。

10 年の節目として、歴代の世話人の方に原稿を寄せていただきました。また、連絡会の活動の記録をまとめてみました。

10 年の間に大学等廃棄物処理施設協議会は大学等環境安全協議会に名称を変更し、技術者連絡会も実務者連絡会に変更されました。実務者の業務も廃棄物処理を主体とするものから多岐に渡るように変化してまいりました。現在、実務者連絡会名簿の再登録をお願いしていますが、今後、実務者のそれぞれの大学等に関わっている業務について整理し、今後の実務者連絡会のあり方について、検討を進めていきたいと思っております。

創立 10 周年によせて

京都大学環境保全センター

真島 敏行

早や 10 年になると聞いて感慨ひとしおです。

たぶん 11～12 年前だったと思います。某理事から「技術職員の会を作ってくれないか。」と言われ、戸惑った末とてもそのような代表を務める自信がないと言って断った。その後も大学等廃棄物処理施設協議会の事務局が東大と京大を行き来していたことと、東大には技術職員が居なかったため、1～2 年後引き受けることにした。

とはいえ、普段主に機械装置を相手にする仕事が多いため 120 名余りの技術職員をまとめていくマネジメント能力に不安をかかえていたのは事実であった。まず会の名前ということであれこれ考えた後、「大学等廃棄物処理施設協議会技術者連絡会」として船出したことになる。理事会に出ることになるが、当時は一人であったから何かとプレッシャーのようなものを感じながら日が過ぎていった。

幸い、高月先生をはじめ、かつてから懇意な全国の技術職員の助けを借りてなんとか廻りはじめ、やがて 2 代目にあたる筑波大学の柏木さんにバトンを渡すことになる。その後、鈴木さん武藤さん・・・と元気な方々に引き継がれ、今日に至っている。

この間、有機・無機処理装置の外部委託が浸透し、代わって環境管理面の方へと仕事内容が変更されていく大学等が目立ってきた。平行して平成 15 年「大学等廃棄物処理施設協議会」という名が「大学等環境安全協議会」にリニューアルされた頃より、当然「技術者連絡会」という名前がふさわしくなくなってきた。皆さんの意見を集約した結果、平成 16 年から「実務者連絡会」という名に変わることとなった。大学の独立行政法人化やダイオキシン類対策特別措置法の波を受けて廃液処理装置の運転管理等から外部委託へ、そして安全や衛生面の仕事を担当する方々が増えてくることとなった。

大学における廃棄物処理業務主体から大学の環境・安全・衛生等はどうあるべきかという部門の役目を背負ったことになるが、処理装置のあるなしと違って普遍的な職務内容だけに今後、連絡会の名称の変更の可能性は少ないものと考えられる。これからもこれまで以上に「実務者連絡会」を充実させてくれるものと信じている。ひたすら、明日の「実務者連絡会」の発展を祈る次第である。

キーワード“廃棄物処理・環境分析”に
キーワード“化学物質管理・安全衛生”が加わって
－10年の思い－

筑波大学環境安全管理室

柏木 保人

平成11年11月17日に東京大学工学部3号館一階34号講義室を開催場所として第一回技術者連絡会を開催できたことを思い出すと、自分自身の未熟さを思い出して恥ずかしい気持ちになります。しかし、私自身の思いとは別にして、第一回技術者連絡会は京都大学環境保全センターの真島さんの先導的な発想と指示、また東京大学環境安全センターの鈴木先生、山本先生のご支援や当時の大学等廃棄物処理施設協議会会長の高月会長のご支援のもと、全国の大学、高専、賛助会員の熱意あふれる技術者が一同に会し、技術者の飾らない発表の場の提供と技術者会員相互の情報交換・情報共有により実務の活性化をめざして出発できたことはその後の技術者連絡会の基礎を築けたのではなかろうかと思っています。あらためて当時にご協力いただきました会員の方々に深謝いたします。その後、第二回連絡会を京都大学環境保全センターで開催し、第三回連絡会からは、浜松医科大学の鈴木さんが世話人に加わって東京都立大学を会場として主に廃棄物の委託処理について、第四回連絡会は神戸大学を会場として主に国立大学法人化の準備のための安全衛生を討論し、第五回連絡会は東北大学において開催され、大学等廃棄物処理施設協議会会長の玉浦先生のご支援のもと連絡会は軌道に乗っていったと記憶しています。

この十年の間に、技術職員などの実務者の業務も大きく変化し、業務に対する意識改革が求められて来たと感じています。廃棄物処理施設の維持管理、分析業務を中心にしたものから、外部委託処理を含めた廃棄物マネジメントやPRTR法に対応した化学物質管理業務も加わって来ました。更に国立大学法人化後には労働安全衛生法適用に対応するために、職場の労働安全衛生体制のための衛生管理者、作業環境測定士、安全衛生委員などの業務が加わって来ました。従って、私自身も、日ごろ、環境問題と安全衛生の両者を考える機会が非常に多くなっています。労働安全衛生法の目的は、労働災害防止のための危害防止基準の確立、事業者の責任体制の明確化、事業者の自主的な安全衛生の活動の促進などにより、総合的・計画的な対策を推進して職場における労働者の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進することを目的としています。また、大学等では労働者を大学構成員と読み替えて実務は運用されていることからして、労働安全衛生法の趣旨を徹底すれば環境問題は起きないのではなかろうかと、最近、思ったりしています。労働安全衛生法の改正により、災害が無いと言っても潜在する危険性または

有害性が存在するという視点から、化学物質等のリスクアセスメントが大学等にも努力義務として求められています。実務者としても、更に、資質と能力の向上が求められているのかもしれないと思っています。

最後に、実務者連絡会の初期の目的であった飾らない発表の場の提供と技術者会員相互の情報交換・情報共有により実務の活性化が促進され、ますます実務者連絡会が発展することを期待しています。とりわけ、実務者の高齢化が進む中で若手の実務者の活躍が期待されます。

実務者連絡会の方向付けはみなさんで！

浜松医科大学技術部（医療廃棄物処理センター）

鈴木 一成

私が旧技術者連絡会に参加したのは、平成12年（第2回）に「焼却炉とダイオキシン」の講演を拝聴してからです。その頃は、大学等環境安全協議会（以下、「協議会」という）が環境教育を主に開催され、私のような技術職員には遠い存在となり、私はあまり参加しなかった状況でした。そんな中で新たに設立された技術者連絡会にも正直、期待薄でした。

しかしながら、その年には突如、協議会の理事に指名され、拒否権もなく驚愕とともに、技術者連絡会の世話人と自動的になるといわれ、困惑しました。

平成13年（第3回）には平成16年4月から国立大学などが法人化され労働基準法関係法令が適用されることから安全衛生関連の講演と、みなさんの事例報告の連絡会を開催しました。廃棄物処理の会に安全衛生の話題を入れることには連絡会のみなさまには戸惑ったことでしょう。

平成14年（第4回）にはみなさまの自由討論の場がほしいとのご意見から第1回、第2回で開催されたディスカッションをテーマごとに行うグループディスカッションを主に開催しました。

平成15年（第5回）には安全衛生対応のためか参加者に事務系の方も多くなり、理事の先生方から「技術的な仕事の方ばかりでなく環境安全の実務に携わる事務の方も参加しやすい」会にしたらどうかとの意見もあり、連絡会にてみなさまのご意見をお聞きして、「廃棄物の処理に関与する技術者を中心とした、環境安全の実務に携わる会員（略して実務者）が、その連携を密にし、環境安全施設等の管理運営に関する諸情報を交換し、会員相互の資質の向上をはかること」を目的とした実務者連絡会と改称しました。

平成16年には、それまでは協議会総会の前日に連絡会は開催されておりましたが、協議会を加えると3日間出席する必要があり、協議会と連絡会のどちらか片方しか出席できない方も多く、「協議会の中で連絡会にも重きを置く」という理事の先生方のお考えをもとに、技術分科会にて実務者連絡会が企画する2時間程度のプログラム、協議会の研修会として（第6回）実務者連絡会を開催することとしました。しかしながら、協議会の中で実務者連絡会を開催することは、相互に問題点を出し合い解決法を探るためのフリーディスカッションを実施しにくく、実務者連絡会の利点を失うこととなってしまったかもしれません。また、一部の理事の先生からは、技術分科会と総会・研修会との内容にあまり差がないことから、技術分科会は連絡会中心に実施したらどうかとの参考意見もありました。このように開催された実務者連絡会の中で、私が特に印象深かった

のは、第4回（神戸大学）と第5回（東北大学）の連絡会です。設営や受付も参加者で行うなどかなり手作りでしたが、開催場所の先生方のご協力も得、50名以上の方が参加され、ディスカッションも活発に行われ、協議会の中で連絡会が明確に位置付けられたような気がしました。

さて、今後の実務者連絡会のあり方について、あくまで個人的な見解では、協議会は環境安全教育、環境報告書などの基本的、崇高的な事項について実施して頂き、実務者連絡会にはもっと実用的に廃水・廃棄物処理を中心に、化学物質に関連する安全衛生など種々の問題を話し合える場を提供して頂きたいと考えております。

実務者連絡会の方向付けはぜひともみなさんで考えて頂きたいと思います。



写真：廃水処理施設更新工事中の水中ばっ気機で威張る筆者

大学等環境安全協議会実務者連絡会の10周年にあたり

平成 17, 18 年度代表世話人

秋田大学 環境安全センター 武藤 一

昭和 54 年 11 月に第一回国立大学廃液処理施設連絡会（会長 東京大 鎌田先生）が東京大学附属図書館で開催され、約 50 大学、70 名が参加しました（準備委員 京都大 高月先生、東京大 白須賀先生、広島大 正藤先生）。施設関係の教官、技官、施設部技官が参加し、施設系技官の占める割合は約 20%でした。第 1 回目の連絡会から現在の協議会実務者連絡会に参加している技官は、数年前に退官された埼玉大 奥墨さん、熊本大 首藤さんを除き、私だけとなりました。

連絡会開催は 4 年で、昭和 58 年 4 月からは大学等廃棄物処理施設協議会が発足し、会長に岡山大学 高橋先生が就任、総会には約 65 の国・公・私立大学が出席、約 125 名（施設系技官 約 20%）の参加がありました。現協議会に参加している施設系技官は、秋田大 武藤、山形大 菅野、（埼玉大 奥墨）、新潟大 大泉、京都大 真島、（九州大 有賀）、（熊本大 首藤）、琉球大 前田さんでした。

7 月に開催されている技術分科会はこの年の 2 年後からスタートし、また、技術者連絡会は平成 10 年 4 月に発足し、京都大 真島さんが世話人代表として活動がスタートしました。技術者連絡会は毎年 11 月開催の協議会総会・研修会の前日に実施しておりましたが、平成 15 年 11 月東北大での総会・研修会開催日に技術者連絡会総会を開催し、連絡会名称を実務者に変更し（代表世話人 鈴木さん）、また、協議会会長 玉浦先生の進言もあり、16 年度からは前日開催していた連絡会を、技術分科会と総会・研修会に技術・事例報告、パネルディスカッション、プロジェクト報告として発表・報告してきました。17 年（第 22 号）からの協議会会報には実務者連絡会からの報告等も掲載されており、また、連絡会からの会報も、この間継続して発行されており、（技術者）実務者連絡会代表世話人は真島さんから柏木さん、鈴木さん、武藤、平さんへと引き継がれています。

技術者連絡会発足時、真島さんは「廃棄物の処理に関する研究」、「処理施設の運営に関する内容」、「希望する議題（パネルディスカッション、連絡会に対する意見等）」の課題発表を募集し、1 日開催の連絡会で発表・討論会を企画・実施してまいりました。この傾向は名称を実務者連絡会に変更後（発表の場は分科会と総会・研修会に移行）も続き、現在に至っております。

この間、実務者連絡会の組織、取り扱うテーマにも変化がみられています。各大学の安全・保全センター等での廃棄物等管理・処理業務が暫時減少し、センター等専属技官の他部局に配置換えなど、センター等を取りまく学内の組織変化とともに、処理・分析技術の報告（技術報告）が少なくなり、最近では事例報告、パネルディスカッション、プ

プロジェクト報告等に労働安全衛生関係の話題（独法化後）が多くなっています。協議会本体ではプロジェクト研究・報告をしていますが、18年度からは連絡会でもプロジェクト調査・報告を実施してきています（代表世話人 武藤）。プロジェクトには出来るだけ多くの構成メンバーが参加し、その成果を共有し、メンバーの資質向上に寄与していることが伺えます。ただ、構成メンバーが、多くはセンター等専任技官のときから、現在では、助手等教官、施設部系技官、民間企業の方も多くなり、個別若しくは包括的な、そして改善すべきは改善しながらプロジェクトを運用することが求められていると思われます。

数年前から「実務者連絡会の今後のあり方・方向性」について一部で討論されてきました。19, 20年度の代表世話人 平さんからは19年11月の実務者連絡会総会で、同件については組織も含め、今後検討したい旨が報告されました。連絡会発足から29年目、実務者連絡会発足から10年目を向かえ、大学等環境安全協議会、同実務者連絡会に課せられた問題は多岐に渡り、その責務は社会的にも重大なものがあると思われます。平さんには大変ご苦勞をお掛けしますが、連絡会の舵取り方宜しくお願い致します。僭越ながら、お手伝いは幾らでもさせていただきます。

実務者連絡会 10 周年によせて

新潟大学 大泉 学

実務者連絡会が、発足し 10 年を迎えました。

会の発足からこれまでご尽力いただいた皆様に感謝いたします。

これを機会に実務者連絡会を振り返ると、平成 9 年 3 月の廃棄物処理施設協議会報 14 号中の、将来構想部会報告において「技官の発表をできるだけ広く取り上げることが望みたい。そして、技監グループ活性化につなげてほしい。」とある。続く 15 号中で技術者ネットワークについて報告がなされており、技術者連絡会が発足している。この時点では、廃棄物処理施設協議会であり実験廃液の処理や分析技術に関する「小さな工夫」の紹介や「問題点」についての率直な意見交換が主目的であり、技術者の職務もはっきりしていた。

ダイオキシンの発生が問題となり、各大学で焼却処理からの所謂「外注処理」がはじまり、全面的な外注処理の大学も増加し、直接的に処理業務に関与する会員の減少、また、法人化に伴い労働安全衛生への業務拡大・移行に対応して、平成 16 年度より従来の処理技術者連絡会から実務者連絡会と改称している。

現在の実務者を考えるときその業務内容は、

- ・ 実験廃液・廃棄物処理
- ・ 労働安全衛生管理
- ・ 薬品管理
- ・ 作業環境測定

などが挙げられるようです。対象業務の種類も増加し、それらに対する会員個々の関与も大学間で大きく異なることから、今後どのように実務者連絡会を進めるか、研修会での実務者企画プログラムの内容・進行方法などについて検討の意見も出ています。ここに挙げられているいずれの業務も実験廃液同様、少量・多品種の薬品を取り扱う大学独特の「むずかしさ」を含んでいると考えます。実務者連絡会が、問題提起あるいは、解決の一助として機能するよう積極的なご参加を期待しています。

今年度実務者の再登録をお願いしています。この中で主・副業務についての記載もお願いし、今後の活動テーマの決定に生かしたいと考えています。また、会の出発点が廃棄物処理であったため、専ら労働安全衛生に従事する実務者には登録いただいていない状況もあると考えます。大学間での組織の違いなどもあり、研修会への出席などにおいては難しい面もあると思いますが、各大学でも登録者の追加などご検討いただければと思います。

実務者連絡会（技術者連絡会）の記録

・ 第1回大学等廃棄物処理施設協議会技術者連絡会

日時：平成11年11月17日（水）13:15～16:20

場所：東京大学 工学部3号館 参加者：60名

1. 技術者連絡会総会

2. 研修会

1) 特別講演「化学物質の安全性と実験廃棄物処理」

東京大学安全研究センター 鈴木良實

2) 技術発表

「医療用廃棄物焼却炉の現状について」

島根医科大学 長谷川 勝

「実験系希薄洗浄排水の処理に携わって」

筑波大学実験環境管理室 岩原正一

「廃液処理の安全性とその確保」

岡山大学環境管理センター 田中雅邦、秋吉 延崇

「改装した東京大学実験廃棄物処理施設の現状について」

日本電気環境エンジニアリング（株） 片山能裕

・ 大学等廃棄物処理施設協議会関西地区技術者連絡会

日時：平成11年1月29日（金）13:00～16:00

場所：京都大学環境保全センター研修室

1. 自己紹介（所属と簡単な仕事内容）

2. 「重金属廃液処理における有機物混入の問題」

京都大学環境保全センター 本田由治

3. 「大学における廃棄物の処理について」

神戸学院大学施設課 飯田正樹

4. 「会社から見た、大学の廃棄物処理」

アサヒプリテック（株）環境保全事業部 田中次郎

5. 意見交換・座談会

・ 第2回大学等廃棄物処理施設協議会技術者連絡会

日時：平成12年11月15日（水）13:15～17:00

場所：京都大学環境保全センター研修室 参加者：54名

1. 技術者連絡会総会

2. 研修会

特別講演「焼却炉とダイオキシソ一豊能郡美化センターの事例から一」

京都大学工学研究科環境工学専攻 武田信生

経過報告「医療用廃棄物焼却炉の現状について」

島根医科大学業務部 長谷川 勝

技術者連絡会ホームページ開設について

ホームページ作成委員 本田由治

ディスカッション

1. 技術者連絡会会員のネットワークについて
2. 「大学等廃棄物処理施設技術者実務マニュアル」の作成について
3. 「事故事例集」の作成について

ワークショップ

各受け持ち部所における諸問題

(事務系、分析系、運転部 (有機・無機・その他))

・ 第3回大学等廃棄物処理施設協議会技術者連絡会

日時：平成13年11月14日(水) 13:30~17:00

場所：東京都立大学国際交流会館 参加者：66名

1. 技術者連絡会総会

2. 研修会

課題：「廃棄物処理委託における排出者責任一いかに安全の確保と法的義務をクリア一するか (廃棄物処理委託と内容物表示 (MSDS))」

1) 「産業廃棄物処理受託の手引きについて」

全国産業廃棄物連合会 中間処理部会排出基準策定技術検討会幹事
鮎田文夫 (野村興産 (株) 技術部部長)

2) 廃棄物委託にあたる内容物表示の事例

香川大学 農学部 関師比呂
愛知教育大学 理科教育講座 榊原洋子
熊本大学 環境安全センター 首藤征男
アサヒプリテック (株) 環境営業部 西 利次

3) ディスカッション

3. 報告

(1) 技術者実務マニュアル

(2) 事故事例集

・ 第4回大学等環境安全協議会技術者連絡会

日時：平成14年11月13日（水）13:00～17:00

場所：神戸大学瀧川記念学術交流会館 参加者：52名

1. 技術者連絡会総会

2. 研修会

1) 特別講演「総合学園としてのISO14001認証取得」

玉川学園 環境部環境保全課長 堤 良友

2) 特別講演「作業環境改善の方法について」

兵庫産業保健推進センター相談員 労働衛生コンサルタント 山田豊治

3) グループディスカッション

「適正な廃棄物処理委託について」

「P R T R届出状況について」

「排水新基準項目への対応について」

「化学物質取扱作業における安全対策と環境対策について」

3. 報告

(1) 技術者実務マニュアル

(2) 事故事例集

(3) 技術賞候補者推薦について

・ 第5回大学等環境安全協議会技術者連絡会

日時：平成15年11月5日（水）13:00～17:20

場所：東北大学工学部青葉記念会館大研修室401号室 参加者：69名

1. 技術者連絡会総会

2. 研修会

1) 講演「労働安全衛生法に適応した実験室のあり方」

ヤマト科学（株） 研究設備本部 松居靖雄

2) 講演「作業環境測定の委託方法について」

（株）日吉 技術部分析研究課測定係 岸本康行

3) 技術報告「洗煙水中のフッ素とホウ素の同時処理」

京都大学環境保全センター 真島敏行

4) 技術報告「液中燃焼法による廃液処理－フェライト反応とフッ素の同時除去－」

不二倉業（株） 富樫 晋、菊池都士、岡沼賢治、進藤 拓

5) グループディスカッション

「労働安全衛生法への適用状況について」

「処理困難な廃棄物への対応について」

「適正な廃棄物委託処理について」

3. 報告

- (1) 技術者連絡会ホームページについて
- (2) 技術賞候補者推薦について

・ 第6回大学等環境安全協議会実務者連絡会

日時：平成16年11月9日（火） 10:20～14:45

場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

大学等環境安全協議会の研修会として開催

1. 報告

「法人化後の環境安全施設と労働安全衛生について」のアンケート結果について 世話人 鈴木一成

2. 事例報告

- 1) 岡山大学における安全衛生管理（環境安全係業務）

岡山大学安全衛生部安全衛生課環境安全係 田中雅邦

- 2) 名古屋工業大学における衛生管理者・衛生工学衛生管理者・作業主任者の業務について 名古屋工業大学安全・保健センター 箕浦寿樹

- 3) 浜松医科大学における衛生管理者・作業主任者の業務について

浜松医科大学医療廃棄物処理センター 鈴木一成

- 4) 大分大学有機則除外申請の手続きについて

大分大学財務部施設管理課 栗木 浩

- 5) 高エネ研における作業環境測定士の業務について

高エネルギー加速器研究機構環境安全管理室 平 雅文

3. 全体ディスカッション

「労働安全衛生対応をどう進めるか」

4. 実務者連絡会総会

・ 第7回大学等環境安全協議会実務者連絡会

日時：平成17年11月24日（木） 10:15～12:30、15:00～15:30

場所：名古屋大学 IB電子情報館 東棟2階 IB大会議室

大学等環境安全協議会の研修会として開催

1. 大学における薬品管理に関する講演

- 1) PCB 廃棄物の処理について

日本環境安全事業（株） 参与・営業部長 村田省三

- 2) 労働安全衛生マネジメントシステムの概要・改善事例の紹介

興研（株）労働衛生コンサルタント事務所 岩崎 毅

3) 薬品管理支援システム－TULIP その後－

富山大学水質保全センター 川上貴教

2. パネルディスカッション

「独法化後の実験系廃棄物の自前・外注処理の課題と今後について」

パネリスト

筑波大学環境安全管理室 柏木保人

浜松医科大学医療廃棄物処理センター 鈴木一成

京都大学環境保全センター 真島敏行

新潟大学廃棄物処理施設 大泉 学

早稲田大学環境保全センター 仲川 広

司会

秋田大学環境安全センター 武藤 一

3. 実務者連絡会総会

・ 第8回大学等環境安全協議会実務者連絡会

日時：平成18年11月9日（火） 10:15～12:00、15:00～15:30

場所：東京農工大学 府中グリーンプラザ

大学等環境安全協議会の研修会として開催

1. 講演

大学と労働安全衛生マネジメントシステムについて

中央労働災害防止協会 井本邦彦

2. パネルディスカッション

「大学等の労働安全衛生に関わる課題と問題点について」

パネリスト

秋田大学環境安全センター 武藤 一

京都大学環境保全センター 真島敏行

愛知教育大学保健環境センター 榊原洋子

筑波大学人事部環境安全管理室 荒井陽一

名古屋工業大学安全管理室 箕裏寿樹

コーディネーター

理研安全管理部 吉識 肇

3. 実務者連絡会総会

・ 第9回大学等環境安全協議会実務者連絡会

日時：平成19年11月29日（木） 10:15～12:00、15:00～15:30

場所：京都大学ローム記念館3F大ホール

大学等環境安全協議会の研修会として開催

1. 講演

教育研究機関の化学物質管理ネットワークについて

京都大学工学研究科 木下知巳

2. パネルディスカッション

「実験系廃棄物処理委託と適正処理の確保」

パネリスト 岡山大学安全衛生部 秋吉延崇
新潟大学廃棄物処理施設 大泉 学
神戸大学環境管理センター 吉村徳男
秋田大学環境安全センター 武藤 一
アサヒプリテック(株)環境事業部 原田大助
コーディネーター 高エネルギー加速器研究機構 平 雅文

3. 実務者連絡会総会

会報の記録

・大学等廃棄物処理施設技術者連絡会会報第1号 平成11年2月発行

第1回技術者連絡会の案内と募集

処理施設の現状	千葉大学	鮫島隆行
私の仕事	香川大学	図師比呂彦
有機廃液処理施設にたずさわって	愛媛大学	加藤庄一
実験廃液の処理に携わって	九州大学	有賀俊文

・大学等廃棄物処理施設協議会技術者連絡会会報第2号 平成12年3月発行

特別講演「化学物質の安全性と実験廃棄物処理」 東京大学 鈴木良實
技術発表

1. 実験系希薄洗浄排水の処理に携わって 筑波大学 岩原正一
2. 廃液処理の安全性とその確保 岡山大学 田中雅邦、秋吉 延崇
3. 改装した東京大学実験廃棄物処理施設の現状について

日本電気環境エンジニアリング(株) 片山能裕

ディスカッション報告

・大学等廃棄物処理施設協議会技術者連絡会会報第3号 平成13年2月発行

特別講演「焼却炉とダイオキシンの豊能郡美化センターの事例から」

京都大学 武田信生

経過報告「医療用廃棄物焼却炉の現状について」

島根医科大学 長谷川 勝

お知らせ「技術者連絡会のホームページ開設について」

京都大学 本田由治

ディスカッション

1. 技術者連絡会会員のネットワークについて 京都大学 真島敏行
2. 大学等廃棄物処理施設技術者実務マニュアルの作成について
筑波大学 柏木保人
3. 事故事例集の作成について 岡山大学 田中雅邦

ワークショップ

事務系	熊本大学	首藤征男
分析系	筑波大学	柏木保人
有機廃液	京都大学	真島敏行
無機廃液	埼玉大学	奥墨 勇

その他

岡山大学 田中雅邦

・大学等環境安全協議会技術者連絡会会報第四号 平成14年3月発行

大学等廃棄物処理施設協議会第3回技術者連絡会報告

特別寄稿

「産業廃棄物処理受託の手引きについて」—適正処理推進のために—

全国産業廃棄物連合会 中間処理部会排出基準策定技術検討会幹事

鮎田文夫

事例報告

1. 廃棄物委託処理の歴史について 香川大学 函師比呂

2. 愛知教育大学における実験廃液 MSDS の現状

愛知教育大学 榊原洋子

3. 熊本大学特別管理産業廃棄物処理業務仕様書について

熊本大学 首藤征男

4. 廃棄物処理委託に伴う分類、内容物表示その他

アサヒプリテック(株) 西 利次

活動報告

1. 大学等廃棄物処理施設技術者実務マニュアルについて

筑波大学 柏木保人

2. 事故事例集について 浜松医科大学 鈴木一成

・大学等環境安全協議会技術者連絡会会報第五号 平成15年3月発行

大学等環境安全協議会第4回技術者連絡会報告

特別寄稿

1. 総合学園としての ISO14001 審査登録 玉川学園 堤 良友

2. 作業環境改善の方法について

兵庫産業保健推進センター 山田豊治

グループディスカッション

1. 適正な廃棄物処理委託について 岡山大学 田中雅邦

2. P R T R 届出状況について 京都大学 真島敏行

3. 排水新基準項目への対応について 筑波大学 柏木保人

4. 化学物質取扱作業における安全対策と環境対策について

浜松医科大学 鈴木一成

第4回技術者連絡会アンケート結果について

・大学等環境安全協議会実務者連絡会会報第六号 平成16年3月発行

大学等環境安全協議会第5回技術者連絡会報告

技術者連絡会の名称変更について

技術者連絡会功労賞の贈呈について

技術者連絡会運営方法の変更について

特別寄稿

1. 労働安全衛生法に適應した実験室のあり方

ヤマト科学(株) 松居靖雄

2. 作業環境測定の委託方法について (株)日吉 岸本康行

技術報告

1. 洗煙水中のフッ素とホウ素の同時処理 京都大学 真島敏行

2. 液中燃焼法による廃液処理ーフェライト反応とフッ素の同時除去ー

不二倉業(株) 富樫 晋

グループディスカッション報告

1. 労働安全衛生法への適用状況について

高エネルギー加速器研究機構 平 雅文

2. 労働安全衛生法への適用状況について

ー個別検討事項問題提起についてー 岡山大学 田中雅邦

3. 処理困難な廃棄物への対応について

筑波大学 柏木保人、京都大学 真島敏行

4. 適正な廃棄物委託処理について

浜松医科大学 鈴木一成、秋田大学 武藤 一

・大学等環境安全協議会実務者連絡会会報第七号 - 労働安全衛生対応特集 -

平成17年3月発行

第20回技術分科会における実務者連絡会企画プログラム報告

大学等環境安全協議会第6回実務者連絡会報告

事例報告

1. 岡山大学における組織変化について 岡山大学 秋吉 延崇

2. 岡山大学における安全衛生管理(環境安全係業務)

岡山大学 田中雅邦

3. 法人化後の処理施設運営形態の変化について

ー筑波大学の事例について 筑波大学 柏木保人

4. 処理施設などの安全対策について 京都大学 真島敏行

5. 独立行政法人理化学研究所における安全衛生への取り組み
理化学研究所 吉識 肇
6. 名古屋工業大学における衛生管理者・衛生工学衛生管理者・
作業主任者の業務について 名古屋工業大学 箕浦寿樹
7. 浜松医科大学における衛生管理者・作業主任者の業務について
浜松医科大学 鈴木一成
8. 大分大学における有機則除外申請の手続きについて
大分大学 栗木 浩
9. 高エネ研における作業環境測定士の業務について
高エネルギー加速器研究機構 平 雅文
10. パッシブ・ドジチューブによる有害物質ばく露濃度の簡易測定
富山大学 川上貴教

- 参考1 国立大学等の法人化による「環境安全施設と労働安全衛生に
ついてのアンケート」結果について
- 参考2 各大学等の労働安全衛生に関する組織図について
- 参考3 衛生管理者管理点検表の例
- 参考4 ドラフトチャンバーの保守点検報告書の例
- 参考5 排ガス洗浄装置の保守点検報告書の例

・大学等環境安全協議会実務者連絡会会報第八号 平成18年3月発行

- 第21回技術分科会 実務者連絡会企画プログラム報告
- 第23回大学等環境安全協議会第7回実務者連絡会企画プログラム報告
- 第7回実務者連絡会総会
- 実務者連絡会ホームページについて
- 実務者連絡会におけるプロジェクトの募集について

・大学等環境安全協議会実務者連絡会会報第九号 平成19年3月発行

- 第22回技術分科会 実務者連絡会企画プログラム報告
- 第24回大学等環境安全協議会第8回実務者連絡会企画プログラム報告
- 第8回実務者連絡会総会
- 平成18年度実務者連絡会企画プロジェクト
プロジェクト報告

1. 大学等における労働安全衛生改善事例の収集と共有化プロジェクト
ー特に、有害物質等を取扱う現場を中心とした衛生管理技術向上
のためにー プロジェクト代表 愛知教育大学 榊原洋子

2. 特殊廃液処理施設理解推進プロジェクト

プロジェクト代表 新潟大学 大泉 学

・大学等廃棄物処理施設技術者実務マニュアル 平成14年3月発行

I マニュアル編

一口カード集の作成について

弘前大学 新谷浩敏

バーコードを利用した薬品管理システム

高エネルギー加速器研究機構 平 雅文

エチジウムブロマイド (EB) の廃棄、処理について

熊本大学 首籐征男

廃棄物処理施設とダイオキシン類

岡山大学 田中雅邦

セレン系廃液処理技術の動向の調査結果と簡単な調査方法

筑波大学 柏木保人

有機系廃液処理（噴霧燃焼法）について

京都大学 真島敏行

電頭試薬の使用上の注意と処理方法

浜松医科大学 鈴木一成

II 資料編

II-1 水質規制値

(A) 排水基準値

(B) 下水道への排除基準

(C) 水質汚濁に係る環境基準

II-2 第一種指定化学物質の物性値

II-3 第一種指定化学物質の元素換算表

II-4 技術者連絡会ホームページの紹介

II-5 大学等環境安全協議会団体会員作成ホームページの紹介

II-6 大学等環境安全協議会会報の技術報告等の分野別タイトルの紹介

技賞候補者推薦のお願い

世話人 平 雅文・大泉 学

実務者連絡会に参加されているみなさまに、大学等環境安全協議会技術賞候補として適正な方を、自己推薦も含め、世話人に連絡下さいますようお願いいたします。なお、次に掲載した協議会の「技術賞内規」と「技術賞受賞者」をご参照下さい。

・技術賞内規

第2条 本協議会に技術賞を設け、多年にわたり大学等における環境安全監理、教育、研究、医療等の諸活動に伴って使用される化学物質等の管理、及びその結果発生する有害な廃棄物の処理に携わり、または環境安全監理に欠くべからざる機械、器具ならびに試薬などの製造及びサービスの実務に従事して、廃棄物処理技術の向上及び環境安全施設等の管理運営に功績のあった者にこれを贈呈する。

第6条 前条によって推薦される者は、多年にわたり第1条の実務に従事し、本協議会個人会員のうちの技術系職員である者、又は団体会員及び賛助会員に所属する技術系職員である者とする。

受賞年	氏名	所属団体	受賞年	氏名	所属団体
1989	小森 均平	名古屋大学	2000	図師比呂彦	香川大学
1990	岩崎 隆昌	NEC 環境エンジニアリング		平 雅文	高エネルギー加速器研究機構
	藤元 数尊	岡山大学		本田 由治	京都大学
1991	矢坂 裕太	大阪大学	2001	木村 利宗	同和工業
1992	井勝 久喜	信州大学		田平 泰広	長崎大学
1993	柏木 保人	筑波大学		長谷川紀子	東京工業大学
1994	真島 敏行	京都大学		若林 和夫	東京都立大学
1995	奥墨 勇	埼玉大学	2002	荒井 智	早稲田大学
	小山 健夫	早稲田大学		荻野 和夫	群馬工業高等専門学校
	前田 芳巳	琉球大学		田中 雅邦	岡山大学
	渡邊 広幸	NEC 環境エンジニアリング	2003	吉崎佐知子	金沢大学
1996	梅本 健志	鳥取大学		岩原 正一	筑波大学
	亀田 紀夫	北海道大学		山田 剛志	NEC アメニプランテクス
	小泉 善一	玉川大学	2004	伊藤 通子	富山工業高等専門学校
	首藤 征男	熊本大学		佐藤 延子	東北大学
	藪塚 勝利	群馬大学		重里 豊子	神戸大学
1997	市川 良夫	姫路工業大学		西 利次	アサヒプリテック
	大泉 学	新潟大学	2005	小沢 宗良	島根大学
	管野 幸治	山形大学		白川 久栄	首都大学東京
	浜本 健児	関西医科大学		川口 聡	(有) 環境産業
	三品 佳子	宮城教育大学		片山 能祐	NEC ファシリテイズ
1998	城 義信	NEC 環境エンジニアリング	2006	松原 滋	野村興産
	鈴木 一成	浜松医科大学		吉識 肇	理化学研究所
	長井 文夫	筑波大学		鮫島 隆行	千葉大学
	宮下 雅文	兵庫医科大学		澤村 幸成	サンレー冷熱
1999	平田まき子	加計学園岡山理科大学	2007	千葉 憲一	八戸工業高等専門学校
	武藤 一	秋田大学		松浪 有高	名古屋大学
	山岸 俊秀	八戸工業高等専門学校			

第 10 回実務者連絡会の予定（案）について

第 24 回技術分科会実務者連絡会企画プログラム

日時：平成 20 年 7 月 25 日（金）10:00～11:50

場所：茨城県民文化センター大ホール

内容：技術報告、事例報告、グループディスカッション

※ 実務者の方に報告を募集し、講演していただく。

第 26 回協議会研修会第 10 回実務者連絡会及び総会

日時：平成 20 年 11 月 13 日（木）・14 日（金）（予定）

場所：琉球大学

内容：実務者連絡会企画プログラム

講演

プロジェクト報告

討論会

第 10 回実務者連絡会総会

事業報告、事業計画等

実務者の皆様からの技術報告・事例報告を募集しておりますので、世話人まで、お申し込み下さい。また、グループディスカッションの企画も考えておりますので、ご希望のテーマ、ご提案等を世話人までお寄せください。

実務者連絡会ホームページについて

これまで、京都大学の本田さんをお願いして「実務者連絡会ネットワーク」を開設してきましたが、現在、新しいネットワーク開設を目指して準備を進めております。

とりあえず、大学等環境安全協議会の Web ページ内に実務者連絡会 HP を立ち上げ、お知らせ、申し合わせ等を掲載しております。

実務者連絡会 HP

<http://www.daikankyo.esc.u-tokyo.ac.jp/jitsumu/jitsumu.html>

実務者連絡会名簿の再登録、追加情報についても載せておりますので、ご活用ください。

新しい実務者連絡会ネットワークについては、準備が整いましたら、ご案内しますので、今しばらくお待ちください。

実務者連絡会名簿の再登録、追加について

実務者連絡会も発足後10年が経過し、実務者の業務も多岐にわたるようになりました。ここで、会員名簿を整理し、会員の職種、業務等について把握し、今後の実務者連絡会の方向等の検討に役立てたいと思っております。

恐れ入りますが、全ての会員の皆様に、再登録をお願いしたいと思います。すでに電子メールで再登録のご案内をお送りしていますが、まだ、再登録されていない方、又は新規に登録ご希望の方は、以下の「実務者連絡会名簿登録申込書」を電子メールにより世話人 平までご提出ください。

実務者連絡会への入会資格等については実務者連絡会申し合わせをご覧ください。

提出先メールアドレス：masafumi.taira@kek.jp

「実務者連絡会名簿登録申込書」のフォーマットは次の URL に載せてあります。

<http://www.daikankyo.esc.u-tokyo.ac.jp/jitsumu/register/list.html>

実務者連絡会名簿登録申込書

氏名：

氏名フリガナ：

性別：

年齢（任意）：

機関名：

所属：

職種（役職）：

機関住所：

電話番号：

FAX 番号：

E-mail：

主業務*：

副業務*：

*業務については次のうちから選択し、主業務、副業務に分けてお答えください。

廃棄物処理/労働安全衛生/環境管理/化学物質管理/その他（ ）

実務者連絡会申し合わせ

平成 11 年 1 月制定

平成 15 年 11 月改正

1. 大学等環境安全協議会実務者連絡会(略して実務者連絡会)と称する。
2. 大学等において、廃棄物の処理に関与する技術者を中心とした、環境安全の実務に携わる会員(略して実務者)が、その連携を密にし、環境安全施設等の管理運営に関する諸情報を交換し、会員相互の資質の向上をはかることを目的とする。
3. 会員は、大学等環境安全協議会(略して大環協)の個人会員、団体会員または賛助会員に所属する者によって構成される。
4. 会員は主として実務者を対象とし、原則として教員、課長相当以上の者は入会出来ない。
5. 実務者連絡会は大環協内に設置し、適宜大環協に援助を仰ぐ。
6. 大環協担当理事は、大環協理事会によって決定され、世話人を兼ねる。
7. 実務者連絡会の代表は、大環協担当理事の互選によって決定し、会務を総括する。
8. 全国を6つのブロックに分け、各ブロックにブロック長1名、副ブロック長1名を置く。また、監査とホームページ作成委員を若干名置く。
9. 大環協担当理事以外の世話人を若干名置き、役員(正・副ブロック長、監査等)については、大環協担当理事・世話人のもと、会員の互選による。
10. 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
11. 長年にわたり大学等において廃棄物処理等環境安全の実務に従事し、定年退職された方若しくは一年以内に定年退職見込みの方で、かつ、役員等により大学等環境安全協議会実務者連絡会に貢献があった方に実務者連絡会功労賞を贈呈する。
12. 平成10年度発足し、翌平成11年度より実務者連絡会を毎年開催し、会報を発行する。
13. 経費は、大環協で決められた範囲でまかなう。
14. 決算は、監事の監査を経て、実務者連絡会に報告する。
15. この会の内容は、大環協にて報告する。

平成 20 年度実務者連絡会役員

役 職 名	ブロック名	氏 名	大学等名
世話人（大環協理事）		平 雅文	高エネルギー 加速器研究機構
世話人（大環協理事）		大泉 学	新潟大学
世話人		武藤 一	秋田大学
世話人		鈴木一成	浜松医科大学
ブロック長	北海道・東北地区	武藤 一	秋田大学
ブロック長	関東地区	柏木保人	筑波大学
副ブロック長	関東地区	平 雅文	高エネルギー 加速器研究機構
ブロック長	中部・北陸地区	大泉 学	新潟大学
副ブロック長	中部・北陸地区	伊藤通子	富山工業 高等専門学校
ブロック長	関西地区	真島敏行	京都大学
副ブロック長	関西地区	重里豊子	神戸大学
ブロック長	中国・四国地区	田中雅邦	岡山大学
副ブロック長	中国・四国地区	平田まき子	加計学園
ブロック長	九州・沖縄地区	前田芳己	琉球大学
副ブロック長	九州・沖縄地区	田平泰広	長崎大学
監 査		秋吉延崇	岡山大学